

施策体系シート(行政経営Bシート)

作成者	組織	自然環境課	職	次長兼課長	氏名	手井 博史
評価者	組織		職		氏名	

施策	施策の目標	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		評価
					(年度)	(年度)	
施策1	積極的な種の保存と適切な野生生物の保護管理	1 絶滅危惧 I 類の種数	種	183 (H22)(※)	273 (H29)	(H30)	
		2 指定希少野生動植物種の数	件	20 (H22)(※)	20 (H29)	(H30)	

施策の目標達成に向けて重点的に取り組むべき課題						課題に対する主な取り組み				評価			
施策	課題		成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		事務事業	対象	予算 (千円)	決算 (千円)	事業の有効性	今後の方向性
					(年度)	(年度)	(年度)						
施策1	課題1	希少種の保存	トキの繁殖数	羽	63 (H30)	57 (H29)	(H30)	1 トキ分散飼育費	県民	46,219			
								2 トキと人との共生推進事業費	県民	1,000			
								3 次代へつなぐトキ舞う里山アクション推進事業費	県民	2,000			
	課題2	野生鳥獣の保護と管理	1 クマによる人身被害件数	件	0 (H22)(※)	2 (H29)	(H30)	1 大型獣対策事業費	県民	8,800			
			2 イノシシによる農業被害額	千円	65,000 (H33)	107,610 (H29)	(H30)						
			3 シカの平均生息密度	頭/km <sup>2</sup>	5.0以内 (H33)	2.9 (H29)	(H30)	2 ニホンジカ捕獲促進事業費	県民	14,400			

(※) H23以降も目標達成に向け努力

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	トキ分散飼育費	事業開始年度	H21	事業終了予定年度		
		根拠法令	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律・トキ保護増殖事業計画			
		・計画等				

作	組	織	自然環境課		
成	職	氏名	主任主事 登美 雄太		
者	電話番号	076 - 225 - 1476 内線 4265			

**事業の背景・目的**  
 環境省のトキ保護増殖事業計画に基づき、平成22年1月に佐渡トキ保護センターからいしかわ動物園にトキが移送され、本県でのトキの分散飼育が開始したことを受け、トキの飼育繁殖を円滑に実施することを目的とする。

**事業の概要** 46,219 千円

- 1 トキの飼育繁殖の実施  
 国の全体的な飼育繁殖計画に基づいてトキの飼育繁殖を実施し、一定の飼育個体群を形成することで、鳥インフルエンザ等の感染症による再絶滅の危険を回避する。
- 2 トキの飼育・繁殖技術の研鑽  
 トキ飼育先進地である佐渡トキ保護センター等の視察を行い、トキの飼育繁殖技術の研鑽を図る。
- 3 トキの飼育・繁殖に関する情報の収集  
 環境省が開催する専門家会合や検討会等への出席や、専門家の招へい等により、トキの飼育・繁殖に関する情報を収集する。
- 4 トキの移送  
 いしかわ動物園において増殖したトキを佐渡トキ保護センターへ返還する。
- 5 トキの普及啓発  
 平成28年11月にオープンしたトキ里山館での公開展示を通じ、トキの生態、生息環境やトキを育む環境づくりの理解浸透につなげる。

**<参考> 環境省の動き**

- 平成19年度 鳥インフルエンザ等の感染症による再絶滅の危険を回避するため、多摩動物公園に緊急移送を決定。分散飼育先の選定の検討
- 平成20年度 分散飼育候補地の視察(H20早春以降)。分散飼育地の決定(H20年12月)
- 平成21年度 分散飼育実施地の視察(H21秋)。トキの移送(H22年1月)
- 平成25年度 追加繁殖1ペアの移送(H26年1月)
- 平成29年度 追加繁殖1ペアの移送(H29年10月)

施策・課題の状況					
施策	積極的な種の保存と適切な野生生物の保護管理				評価
課題	希少種の保存				
指標	トキの繁殖数			単位	羽
目標値	現状値				
平成30年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
63	41	45	50	57	

事業費					
(単位:千円)	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費 予算	26,126	26,773	28,927	46,226	46,219
事業費 決算	25,968	26,680	28,789	46,033	
一般 予算	26,126	26,773	28,927	46,226	46,219
財源 決算	25,968	26,680	28,789	46,033	
事業費累計	124,191	150,871	179,660	225,693	271,912

評価	
項目	評価
事業の有効性  (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	左記の評価の理由
今後の方向性  (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	トキと人との共生推進事業	事業開始年度	H29	事業終了予定年度		作 組 織	自然環境課	
		根拠法令 ・計画等	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律・トキ保護増殖事業計画			成 職・氏名	主任主事 登美 雄太	
							者 電話番号	076 - 225 - 1476 内線 4265

**事業の背景・目的**  
 本県は、本州最後のトキ生息地であり、トキに大変ゆかりが深い土地であることから、トキが再び舞うような里山を取り戻し、永く後世に引き継いでいく必要がある。  
 トキの認知度向上やトキを育む環境づくりの理解促進に取り組み、県民のトキに対する一層の理解を深めることを通じて、トキ保護、ひいては自然環境保全についての意識を醸成し、トキと人との共生するいしかわの推進を図る。

**事業の概要** 1,000 千円

- 1 トキの生態・生息環境を学ぶセミナーの開催  
 いしかわ動物園「トキ里山館」で生態・生息環境を学び、トキ保護につながる環境保全活動の動機付けを図る  
 対象者：県民全般
- 2 佐渡派遣研修の実施  
 トキを育む環境づくりの現場視察やトキ保護団体関係者との意見交換  
 対象者：トキの生態・生息環境を学ぶセミナーの参加者など、トキを育む環境づくりに特に意欲のある団体
- 3 小学校向け出前講座の開催  
 トキ保護を通じた環境教育(出前講座)の実施

施策・課題の状況						
施策	積極的な種の保存と適切な野生生物の保護管理				評価	
課題	希少種の保存					
指標	トキの繁殖数			単位	羽	
目標値	現状値					
	平成30年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	63	41	45	50	57	

事業費					
(単位:千円)	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費 予算				1,200	1,000
事業費 決算				1,005	
一般 予算				1,200	1,000
財源 決算				1,005	
事業費累計		0	0	1,005	2,005

評価	
項目	評価
事業の有効性  (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	左記の評価の理由
今後の方向性  (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 次代へつなぐトキ舞ういしかわアクション推進事業費

事業開始年度 H30 事業終了予定年度  
 根拠法令 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律・トキ保護増殖事業計画  
 ・計画等

作 組 織 自然環境課  
 成 職・氏名 主任主事 登美 雄太  
 者 電話番号 076 - 225 - 1476 内線 4265

**事業の背景・目的**  
 本県は、本州最後のトキ生息地であり、トキに大変ゆかりが深い土地であることから、トキが再び舞うような里山を取り戻し、永く後世に引き継いでいく必要がある。  
 トキをシンボルとした自然環境保全への意識醸成に向けて、将来の担い手となる世代(小学生)に対し、トキをテーマとした環境教育を推進し、トキを育む環境づくりにつなげる。

**事業の概要** 2,000 千円  
 子どもたちがトキについて楽しみながら学び、自主的に身近な環境保全活動に取り組むきっかけづくりを行う。

(1)「トキ舞ういしかわアクションシート」の作成・配布  
 子どもたちが自主的に学び、身近な環境保全活動に一步踏み出すきっかけとなる学習シート(アクションシート)を作成し、小学校に配布  
 <内 容>  
 ○トキの生態を題材とした環境保全の基礎学習  
 ○子どもにもできる身近な環境保全活動の紹介  
 <配布先>  
 県内の全小学校4～6年生(約3万人)  
 <特典>  
 ○いしかわ動物園子ども無料招待券(参加者全員)  
 ○いしかわ動物園年間パスポート(抽選)

(2)「トキこども検定」の実施  
 子どもたちが楽しみながらトキの知識を学ぶことができるよう、「トキこども検定」を実施  
 <内 容>  
 ○トキについて小学校5～6年生の学習内容に合わせ出題  
 ○トキ検定の事前学習用問題の提供(ホームページ)  
 ○合格者へは合格証等を交付

施策・課題の状況						
施策	積極的な種の保存と適切な野生生物の保護管理					評価
課題	希少種の保存					
指標	トキの繁殖数			単位	羽	
目標値	現状値					
平成30年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	
63	41	45	50	57		
事業費						
(単位:千円)	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	
事業費 予算					2,000	
事業費 決算						
一般 予算					2,000	
財源 決算						
事業費累計		0	0	0	2,000	
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性  (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)						
今後の方向性  (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)						

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	大型獣対策事業費	事業開始年度	H23	事業終了予定年度		作組織	自然環境課	
		根拠法令 ・計画等	鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律、特定鳥獣保護管理計画 (H13年度策定、H18延長)				成職・氏名	専門員 橋本洋文/主事 船本こころ
						者電話番号	076 - 225 - 1477 内線 4268	

**事業の背景・目的**

(背景1 クマの個体数増加及び里山周辺での定住)

近年、市街地周辺等でもクマが目撃されており、里山周辺でのクマの定着が危惧されることから、クマの目撃が多い地域住民向けのセミナーを開催するほか、里山地域におけるクマの生息状況を把握し、より適切な管理のための基礎データ収集を図り、人身被害防止につなげる。

また、近年捕獲が低調となっていることから、市町職員を対象とした捕獲技術習得研修会を開催し、捕獲促進を図る。

(背景2 ニホンジカの生息域の拡大)

ニホンジカについては、生息数も少なく、分布も南加賀地域に偏っているという侵入初期の低密度の段階と考えており、個体数増加を抑制していくには、効率的に捕獲をする必要があるため、高密度な地点(越冬地や繁殖地)を把握する調査等を継続し、蓄積した調査データを県が実施する捕獲促進事業に活用するとともに、市町に引き続き提供することで、捕獲の促進につなげる。

(背景3 イノシシの県内全域への分布拡大)

繁殖力の高いイノシシについては、生息域が県内全域に拡大しているが、これまで生息数の有効な算定手法が確立されておらず、個体数が把握できていなかった。

今年度も引き続き、昨年度行った個体数推定等のデータ更新を行い精度を高め、市町にフィードバックすることで、市町の捕獲の促進につなげる。

**平成30年度事業概要**

- (1) 【継続】クマ人身被害防止対策事業及び生息状況調査(2,200千円)
  - ・クマ目撃情報が多い地域等の住民向けに人身被害防止対策を普及啓発するセミナーを開催
  - ・市町向け捕獲技術研修会の開催
  - ・里山クマ調査(自動撮影カメラによるモニタリング調査)の継続
- (2) 【継続】ニホンジカ被害未然防止対策(5,920千円)
  - ・効率的な捕獲促進に繋がる各種調査の実施
  - ・市町・狩猟者等を対象に、被害未然防止対策セミナーを開催し、調査結果等を提供し、捕獲意欲の喚起を行う。
- (3) 【継続】イノシシ個体数推定等業務委託事業(680千円)
  - ・県全体及び地域ごとの個体数推定及び将来予測の実施
  - ・市町・狩猟者等を対象に、説明会を開催し、調査結果等を提供し、捕獲促進につなげる。

施策・課題の状況						
施策	積極的な種の保存と適切な野生生物の保護管理				評価	
課題	野生鳥獣の保護管理					
指標1	クマによる人身被害件数				単位	件
目標値	現状値					
H22(※)	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	
	0	5	2	2	2	
指標2	イノシシによる農業被害額				単位	千円
目標値	現状値					
H33	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	
	65,000	91,449	70,325	81,061	107,610	
指標3	シカの平均生息密度				単位	頭/km <sup>2</sup>
目標値	現状値					
平成33年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	
	5.0以内	3.1	2.7	4.3	2.9	
※平成23年度以降もこれを目指し努力						

事業費						
(単位:千円)	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	
事業費	予算	11,164	15,323	13,852	12,120	8,800
	決算	9,361	15,195	10,821	10,229	
一般	予算	1,499	5,000	4,752	5,200	2,200
財源	決算	1,341	4,874	4,659	4,991	
事業費累計		22,659	37,854	48,675	58,904	67,704

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性  (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)		
今後の方向性  (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)		

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

<b>事務事業名</b>	ニホンジカ捕獲促進事業費	<b>事業開始年度</b>	H30	<b>事業終了予定年度</b>		<b>作 組 織</b>	自然環境課	
		<b>根拠法令</b>	特定鳥獣保護管理計画(H24年度策定)			<b>成 職・氏名</b>	専門員 橋本洋文	
		<b>計画等</b>	特定鳥獣管理計画(H27年度策定)			<b>者 電話番号</b>	076 - 225 - 1477 内線 4267	

**事業の背景・目的**

**【背景】**

ニホンジカについては、全国的に生息数が増加傾向にある中、近年、県内においても生息数が増加、生息域も拡大傾向にあり、今後、イノシシと同様に、県全体へ分布が拡大し、農林業、生活環境及び森林生態系への被害の拡大が懸念される。

**【目的】**

県内におけるニホンジカの捕獲数は低調で、生息数の抑制に繋がっていないことから、県内の高密度地域(定着し繁殖している地域)において、県が積極的に捕獲を進め、生息数の抑制を図る。

**平成30年度事業概要 (事業費: 14,400千円)**

① 捕獲計画の策定・効果検証 3,200千円(県負担分 0千円)

捕獲事業を計画的に実施するための実施計画を策定

- ・実施計画策定検討会の開催
- ・実施計画策定等業務委託(計画案の策定、捕獲情報の収集・分析、事業結果の評価・検証)
- ・生息状況調査(ライトセンサス調査、アンケート調査など)

② 銃猟による捕獲 5,200千円(県負担分 2,600千円)

高密度地域での銃猟による捕獲

場 所: 県内の高密度地域のうち2地域

時期等: 12月～翌年2月末

③ 大型檻による捕獲の実証 6,000千円(県負担分 0千円)

高密度地域での遠隔監視・操作システムを使った大型捕獲檻による捕獲

場 所: 県内の高密度地域のうち1地域

時期等: 10月～12月末

施策・課題の状況					
<b>施策</b>	自然環境の保全、生物多様性の確保及び野生鳥獣の保護管理				<b>評価</b>
<b>課題</b>	野生鳥獣の保護管理				<b>評価</b>
<b>指標</b>	シカの平均生息密度				<b>単位</b>
<b>目標値</b>	現状値				頭/k㎡
<b>平成33年度</b>	<b>平成26年度</b>	<b>平成27年度</b>	<b>平成28年度</b>	<b>平成29年度</b>	<b>平成30年度</b>
5.0以内	3.1	2.7	4.3	2.9	

事業費						
	<b>(単位:千円)</b>	<b>平成26年度</b>	<b>平成27年度</b>	<b>平成28年度</b>	<b>平成29年度</b>	<b>平成30年度</b>
<b>事業費</b>	<b>予算</b>					14,400
	<b>決算</b>					
<b>一般財源</b>	<b>予算</b>					2,600
	<b>決算</b>					
<b>事業費累計</b>		0	0	0	0	14,400

評価		
<b>項目</b>	<b>評価</b>	<b>左記の評価の理由</b>
事業の有効性  (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)		
今後の方向性  (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)		